

令和7年度 第1回 静岡市立日本平動物園運営委員会会議録

日 時 令和7年11月6日(木) 午後2時 00 分から午後3時 15 分まで

場 所 日本平動物園 2階 大会議室

出席者 運営委員:古賀委員、小山委員長、田宮委員、永岡委員、野上委員、増田委員、山崎委員

事 務 局:竹下参与兼日本平動物園長、金澤担当課長兼飼育第2係長、中村園長補佐兼企画係長、市川施設係長、岡村飼育第1係長、山田動物病院係長、望月主査、山本主査、太田主事

オブザーバー:一般財団法人 静岡市動物園協会 山川事務局長

傍聴者:なし

内 容

1 開会

2 園長あいさつ

3 議事

(1)令和 6 年度の事業実績について

(2)令和 7 年度の事業計画について

(3)現況報告

①飼育動物の近況について

②飼育動物の繁殖・来園・出園・死亡について

③改修工事・修繕業務 進捗状況

④その他

4 閉会

< 会 議 録 >

【開 会】

会議は公開とすること、傍聴者なし、委員の出席は7名全員であることを報告。

【園長あいさつ】

(竹下園長)

本日は、御多忙の中、令和7年度第1回静岡市立日本平動物園運営委員会」に出席いただき、御礼申し上げます。

近年は春秋が短く、また猛暑の影響により、当園に限らず全国の動物園でも入園者数が減少傾向にある。秋の行楽シーズンを迎えたが、土日祝に雨が重なり、数字的には大変厳しい状況にある。さて、今年度の新たな取り組みのひとつとして、ゴールデンウィークにおける渋滞対策として駐車場の事前予約制を実施した。これにより渋滞発生抑制は図れたが、入園者数は昨年度の同期間より3割ほど減少した。運用において様々な課題もあったので、研究して翌年度に繋げていきたい。飼育動物については、令和7年7月7日に2年ぶりとなるレッサーパンダの赤ちゃんが誕生した。先月より一般公開が始まり、その可愛らしい姿が人気を集めている。

当園も今年で開園56年を迎えたが、当園に限らず全国の動物園の置かれている状況は大変厳しく、それらに対応していくため様々な施策を実施していく必要がある。各委員には、当園の運営等に対して、忌憚のない意見をいただきたいと思う。

【議 事】

(小山委員長)

規則に基づき議長を務める。会議が円滑に進むよう委員各位の協力をお願いしたい。
次第に沿って項番5の(1)から(3)の令和6年度の事業実績等の順に事務局より一括説明をお願いする。

【事務局説明】

議事(1)令和6年度事業実績

(説明:中村園長補佐)

事前にお渡しした資料を基に各項目の要点を一括して説明する。

① 令和6年度の実績について

令和6年度の入園者数は、令和5年度と比べ、4%ほど減少した。

収入額については、入園者数の減少に伴い、入園料等は前年度と比較して落ち込んだが、令和4年9月の台風15号の影響で休止していたオートチェア・ローラースライダーの再開に伴い、当該収入が増加したことで、収入額全体としては令和5年度を上回った。

② 入園者の推移について

令和6年度並びに過去3年度の月別の入園者の推移は、2ページのとおり。

③ 園内イベント実績について

令和6年度の主な園内イベントの実績は3ページから5ページのとおり。

その他各種イベントの開催状況については、本日配布した「2024 年報」を参照されたい。

④ 企業連携事業について

企業との連携事業は6ページから9ページのとおり。企業、大学等と連携したイベント実施のほか、各所より寄附をいただいた。

(説明:山田動物病院係長)

当園での繁殖、来園、出園及び死亡した動物については10ページのとおり。

主な動物の繁殖として、マレーバクが誕生した。

死亡した動物では、レッサーパンダのタク、ツチブタのフラハがあった。

このほか、多種多様な動物たちが仲間入りしたほか、他園での繁殖推進等のため当園から出園した。

(説明:市川施設係長)

11、12ページは主な修繕業務となり、主なものは、老朽化が著しい山麓山頂駅舎のウッドデッキ修繕や動物福祉の向上及び飼育環境の改善を図るため、類人猿舎等に冷暖房機器を設置な

どの施設修繕を実施した。

また、第 2 駐車場の出口精算機を更新し、令和 7 年3月よりキャッシュレス決済が可能となった。

議事(2)令和7年度事業計画

(説明:中村園長補佐)

① 令和7年度事業計画について

続いて、令和7年度の事業計画等については 13 ページからとなる。

13 ページ中段(3)計画概要の入園者数だが、10 月末現在の状況について報告する。

令和7年 10 月末時点の有料入園者数は 123,576 人、無料入園者数は 66,782 人、合計入園者数は 190,358 人。令和6年度の同月末の合計入園者数は 221,644 人のため、31,286 人減少している。

14ページからが主要事業となり、記載のとおり、例年と大きな変更はない。

15ページ下段、ゴールデンウィークの状況について、例年発生している慢性的な渋滞対策の一環として、今年度より駐車場の事前予約制を実施した。この対応により今年は渋滞の発生がなく、また来園された方からも「待たずにスムーズに入ることができた」との声もいただいたが、「予約制であることを知らなかった」という方もあったため、次年度以降の周知広報への課題と考えている。また、期間中の入園者数も例年と比較して減少しているため、予約車両の出庫状況を見ながら、午後の一定時間以降の駐車場開放など、柔軟な対応を行い、誘客対策を講ずる必要性もあると考えている。

16 ページの夜の動物園の状況について、昨年度は 13,244 人、今年度は 10,592 人となり、2,652 人減少した。これは 4 日間の開催のうち、3日間が天候不順であったことが要因。

続いて現況報告について、17 ページからを参照いただきたい。

議事(3)現状報告

(説明:岡村飼育第 1 係長)

① 展示動物の近況報告について

飼育動物の近況報告について、ホッキョクグマだが今年は交尾行動が確認できたため、妊娠の可能性を考慮して 10 月下旬よりバニラの展示を休止している。

(説明:山田動物病院係長)

② 主な繁殖、来園、出園、死亡動物について

17ページ中段から19ページまでが、主な繁殖、来園、出園、死亡動物についてとなる。

繁殖については、4月にバーバリシープと7月にレッサーパンダが誕生。バーバリシープは5年ぶり、レッサーパンダは2年ぶりの繁殖となり、どちらも順調に生育している。

なお、11 月 16 日まで、レッサーパンダの赤ちゃんの名前を募集している。生まれた日にちなんだ7(ナナ)にゆかりのある素敵な名前を贈ってほしい。

主な来園動物については、2頭のウスイロホソオクモネズミが埼玉こども動物自然公園から来園。名前にあるクモは空に浮かぶ雲で、高い場所や樹の上で暮らすことから名付けられた。現在は、夜行性動物館で展示をしている。

出園動物はない。

死亡動物について、オランウータンの「ジュリー」が3月に死亡している。死因は仮性結核。ジュリーは、穏やかな性格でトレーニングにも素直に協力してくれていた。

（説明：市川施設係長）

③ 主な施設修繕について

令和6年度に山頂・山麓駅舎の来園者動線範囲など早急に必要な箇所を修繕した。今年度も引き続き山頂駅舎の修繕を実施し、山頂広場の遊歩道接続箇所のデッキを一部取壊し、整備後に階段を設置。これにより遊歩道の利用が可能となった。

このほか、猛獣館・新ホッキョクグマ舎ろ過機と熱帯鳥類館防排煙設備の修繕を実施した。

（説明：中村園長補佐）

④ その他事項について

民間企業等との連携事業について、昨年度に引き続き、静清信用金庫様、トヨタユナイテッド静岡株式会社様とのほか、静岡英和学院大学様との事業連携を実施した。

今後も、様々な企業、学校との連携事業を推進し、園の魅力向上に努めていきたい。

22 ページは昨年度から実施している「日本平動物園サポーター制度」についてとなり、今年度も継続して実施している。認定者数や応募状況は記載のとおり。

（説明：金澤担当課長兼飼育第2係長）

⑤ 借用動物期間更新等調整業務について

22 ページ中段、借用動物期間更新等調整業務について報告する。

当園でも屈指の人気を誇るホッキョクグマのロッキーは、ロシアのレニングラード動物園より借用しており、その期限が令和8年3月30日で満了することとなっていた。

同園と協議を重ね、令和17年12月31日まで借用期間を延長する旨の追加協定書を令和7年10月1日に取り交わした。これにより、当園でのロッキーの継続展示が可能となった。

⑥ コレクションプラン改定案について

⑦

（説明：岡村飼育第1係長）

前回報告した当園コレクションプランの改定について、担当より現状の状況を報告する。

なお、ただいま配布した資料については、中間報告用のため説明後回収させていただく。

（説明：山本主査）

コレクションプラン改定について、前回の運営委員会で報告した時点では、多くの動物種が未検討であったが、現時点では当園で飼育している動物種の大半がカテゴリ別に整理できた

ことを報告する。

カテゴリについては前回の説明と変わらず、5つのグループで整理している。

「最優先種」「優先種」に属する種は、当園において繁殖を目指し飼育展示を行うもの。

「維持種」に属する種は、全国の動物園での飼育頭数などの状況から、当園では繁殖を目指さないが、飼育展示のみ行うもの。他園で発生した余剰個体を受け入れ、飼育展示するものも含む。

ここまでが当園で飼育展示していく動物種となる。

「調整種」は、現在当園で飼育はしているが、国内でも個体数が少なく、今後の継続的な飼育展示が難しい種と位置づけ、現在飼育している個体が死亡した時点で展示を終了するもの。

「検討種」は、主に過去に当園で飼育していた動物種を対象に、今後飼育展示を再開するか方針が定まっていないもの。また、過去に飼育してはいないが、今後飼育展示する可能性がある種、例えば日本古来の希少種なども含め検討していくものがこれに当たる。

なお、コレクションプラン改定に対する考え方は前回報告時と変更がないことを申し添える。

（説明：岡村飼育第1係長）

各カテゴリに属する種の最終整理を行い、次回の運営委員会において、最終版を諮れるよう予定している。

事務局からの説明は以上。

【 質 疑 応 答 】

（小山委員長）

事務局の説明について質疑を行う。

（永岡委員）

入園者数の減少は全国的なものか。入園者増に向けた参考になる他園の取り組みはあるか。

動物園は観光部局に属しているが、市からは何を期待されているのか。

ホッキョクグマの繁殖に期待する。企業・大学連携や令和7年度目標入園者数の達成なども、がんばってもらいたい。

コレクションプランについては、日本産の動物の導入もお願いしたい。また、国内にも絶滅が危惧される希少種が多いので、保護活動等のPRなどの情報発信の強化もお願いしたい。

（事務局：竹下園長）

全国の多くの動物園で、コロナ渦前の水準で入園者数は戻っていない。上野動物園など大都市の動物園は入園者数が回復傾向にあるが、地方は厳しい状態にある。

誘客への取り組みについては、各園苦慮しているところ。当園は中部ブロックというエリアに属しているが、その中で回遊性を持たせたスタンプラリーを実施する案もあったが、費用対効果面等から難しい状態にある。当園でも「大人の飼育体験」といった体験型イベントを実施してい

るが、参加人数に限りがあるため、入園者増というよりは、教育普及や満足度の向上の面が高い。八木山動物園などでホッキョクグマの繁殖があったが、やはり希少種の動物の赤ちゃん誕生は集客効果が高い。

動物園は博物館でもあるため、社会教育施設という一面もあり、市によって所属している部局は様々であるが、当園は年間 40 から 50 万人の来園者のある施設のため、市からは観光施設として一翼を担うことが期待されていると思う。

（事務局：中村園長補佐）

当園では、ホームページをはじめ、X と Facebook などの SNS を活用して、動物園の魅力や取り組みを発信している。静岡市は情報発信が弱いと言われているが、SNS など突然盛り上がることもあるので、動物園のファンの方だけでなく、様々な方の目に留まるよう、情報の発信の仕方について工夫していきたい。

（野上委員）

ノースサファリ札幌の動物の移動先が問題となっているが、日本平動物園で引き受ける予定はあるか。

レストランの売りとなるようなメニューなどで、集客への効果もあるのではないか。

ローラースライダーが再開したが、山頂に新たな遊具の導入の予定はあるか。

（事務局：竹下園長）

ノースサファリ札幌から、そういった話はなく静観しているが、仮に要請があった場合でも、受け入れに適した獣舎の空きや現在飼育している動物との関係などのほか、特に公立の動物園は現在飼育している動物等の規模で予算を組んでいるため、簡単に受け入れることは難しい。

レストランは一般財団法人静岡市動物園協会が運営しており、若手職員を中心に新メニューの開発などに取り組んでいる。また、「しろくまキッチン」としてリニューアルしたことで入園者数が減少している中、売り上げをアップしている。

ローラースライダーは人気が高く、再開を待ち望む声は多かった。

山頂にはかつて、アスレチックやふわふわドームといった遊具があったが、管理上難しい面があり、現時点では新たな遊具の導入は予定していない。

なお、園内アンケートでは眺望を活かした芝生広場の希望が高い。

（増田委員）

入園者の年齢層は把握しているか。その層に適したイベントの開催が誘客を促進するのでは。

（事務局：中村園長補佐）

昨年度の来園者アンケートでは、20 代から 40 代のいわゆる子育て世代の層が多い。

（事務局：竹下園長）

こども園や小学校などの団体入園は大変ありがたい。ただ、やはり子どもの人数そのものは毎年減ってきている。動物園に限ったことではないが、違う層にも向けた仕掛けづくりは必要だと感じている。

（古賀委員）

大人の飼育体験の内容はどのようなものか。

静岡市は客船寄港も多いので、インバウンドツアーに動物園を取り込むようなことはできないか。

（事務局：岡村飼育第1係長）

大人の飼育体験は、参加者に飼育作業の基本的な部分を体験してもらうもの。具体的には、動物の餌を作ったり、獣舎の清掃といった作業を飼育員と一緒に行うものとなっている。

全ての飼育作業を体験できるものではないが、中々体験できるものではないため、好評を得ている。なお、丸1日の体験ではなく、午前中の2～3時間の作業時間となっている。

（事務局：中村園長補佐）

清水港への客船寄港は、来年度も100隻以上あると聞いており、大きな可能性を秘めているという認識はある。しかし、客船の乗客向けのオプションツアーなどは、基本的には船会社が旅行企画会社に手配しているが、当園をツアーに組み込んでもらうためには、旅行企画会社に当園からアプローチをかける必要がある。受入体制が整っていない状態でのアプローチは難しい。また、多国籍の外国人の団体受け入れの体制にも、園内サインやコミュニケーションの問題など対応すべき課題が多いものと考えている。そのため、すぐの対応は難しいと考えるが、市内の外国人も増えているため、そうした環境整備の検討も必要かと考える。

（山崎委員）

様々な企業と連携をしているが、動物園としてはどういった連携を望んでいるのか。

駐車場のキャッシュレス決済の拡充があったが、状況について教えてほしい。

（事務局：竹下園長）

企業連携については、園としては集客や財源確保に繋がるような連携を望んでいるが、双方がウィンウィンとなるような取り組みを期待している。

（事務局：市川施設係長）

駐車場のキャッシュレス決済の状況だが、第1駐車場と第3駐車場は事前精算方式となっており、精算機を正面と東門に設定している。拡充した第2駐車場は出口精算機での対応となっている。

なお、エントランス前駐車場と第4駐車場については、電源や通信回線等の施設の構造上、キャ

ツシュレス決済対応の目途はついていない。

（事務局：竹下園長）

キャッシュレス決済については、入園料等の年間収入が 2 億数千万円ほどあるが、そこから数パーセントの手数料でかかっており、財政的にも非常に厳しい。

また、新たにキャッシュレス決済対応の業務が発生しているが、現金での決済事務も残っているため、業務は増えている。サービスの拡充面では仕方がないことだが、施設側としては悩ましいところ。

（田宮委員）

日本平周辺でもイノシシが出没することがある。動物園ではどうか。全国でクマの出没問題もあり、野生動物との境界が近くなっているので、気を付ける必要がある。

（事務局：市川施設係長）

動物園の園周路で、数度確認している。旧エンバーソン住宅の辺りで出没したと職員からも報告があった。近年目撃情報もあるため、野生動物の捕獲等に知見の職員もいるので、対策を取っているところ。

（事務局：竹下園長）

今のところ目撃情報があるだけで、園に直接被害は出ていないが、野生動物のため様々な感染症を持っている可能性がある。園の中には希少種を多く飼育しているため、これらに感染しないよう対策を講じていく必要がある。

（小山委員長）

情報発信は中々に難しい。今は情報を自ら取りに行く必要があり、年齢層によって情報の取得の仕方が異なる。届けたい層への情報発信は特に難しいと感じる部分がある。

コロナ禍前後での入園者のインバウンドの割合はどうか。静岡市内では外国人が多い印象はないが、外国語表記を充実していくことは必要。実際に言葉を使っている人達に任せる方が正しい表記となるので、大学とか専門学校と連携してみてもは。また、外国人同士の口コミなどのコミュニティ同士の情報網も強いので、そうしたネットワークを活用することでも情報が広がると思う。

（事務局：中村園長補佐）

インバウンドの旅行者がどのくらい来園しているかといった数は把握していない。

園内を見ている感覚だが、外国人は割と目にする。国籍は多様で、欧米系は少なく、アジア系が多い印象。

（小山委員長）

ほかに質疑がなければ、終わりとさせていただきます。